

～江戸時代の数学に触れよう～ 名前( )

Q1. 次の文章を解読してみよう。

桜ばな、咲ちるころや、山径の、おのづからなる唇  
もと、おもふへにける四方やまの、花もさかりにな  
りければ、互いに心をしれる友かきかたらいて、花  
見にゆかむ、歌よまむ。まづ短冊を同じ程わきてけ  
ふなん飛む。かしの邊をさしてうかれゆき。さて、  
人ごとによみたりし歌は三首に、短冊の余り三ひら  
をもちかえる。また、あけの日は人かずの少なくな  
りて、人毎に五首を詠て、余りなし。かくて、ひと  
しく分たりし数は、いかにや問し答えに。

<単語のヒント>

- ・かし:河岸
- ・友かき:友がきすなわち‘友人‘
- ・おのづから:自づから
- ・まつ:まず
- ・邊:あたり、ほとり

<現代語訳>

Q2. 数学の問題になっている部分を文中から抜き出そう。

Q3. 抜き出した文章に基づいて、式を立ててみよう。

Q4. 問題を解こう。

<反省・感想>